ぶどうの木

2010年12月
第92号
聖アウグスチノ
カトリック葛西教会

東京都江戸川区中葛西1-10-15
03-3689-0014

「飼い葉桶」にもどりましょう

主任司祭　ヘスス・ダーニョOSA

私は先日信者の若者たちのクリスマスパーティーに参加させていただき、その中でお祈りと挨拶を頼まれました。イエス様が生まれた最初のクリスマスについてお話ししました。聖書では、マタイとルカの福音書にしかイエス様の誕生の物語が出てきません。その物語の中からいくつかの質問をしました。基本的で簡単なクイズを考えたつもりでしたが、皆さんはほとんどの質問に答えられず、私は悔しいと感じました。

この悔しい事件を通して、若者たちはただ表面的な意味でのクリスマスしか知らないのではないか、という不安を私は抱きました。クリスマスには、家やデパートをイルミネーションやクリスマスツリー、サンタクロースで飾ったり、音楽会やクリスマスパーティーなどの集まりをしたり、プレゼントとケーキを買ったりと楽しい雰囲気を味わうのですが、クリスマスはますます商品化してきていると感じてしまうのは私だけではないでしょう。

それにしても、楽しいクリスマスは悪くないと思います。楽しいクリスマスであると同時に幸せで深いクリスマスとも感じられるように、イエス様が生まれた最初のクリスマスの物語を思い出しましょう。クリスマスのお祝いの中心は救い主イエス様なのですが、まだイエス様をあまり知らない信者たちも多いかもしれないので、最初のクリスマスの基本に戻り、聖書から学んでまいりましょう。

以下は私が信者の若者たちに尋ねた基本的な質問ですが、皆さんもこれらの質問の答えを考えてみてください。まず最初に、マタイとルカによると、イエス様は何という町でお生まれになったでしょうか。ご降誕の場面には、ヨセフ様とマリア様と幼子イエス様以外にどんな人がいたのでしょうか。占星術の学者たちが三つの贈り物を捧げましたが、それは何だったでしょうか。占星術の学者たちは何のおかげでイエス様のところにたどり着けたのでしょうか。

次の質問は第二レベルになると思いますが、マタイとルカによると、なぜ、マリア様とヨセフ様は、生まれたばかりのイエス様を飼い葉桶に寝かせたのでしょうか。皆さんがご存知のように、教会の馬小屋の中には、らくだ、馬、牛、羊といった動物が入っていますが、聖書によると、イエス様が生まれた日には、この四種類の動物の中で、一つの種類しか登場しません。それはどんな動物でしょうか。

最後になりますが、なぜ幼子は「イエス」と名付けられたのでしょうか。イエスという名まえはどういう意味でしょうか。

イエス様が生まれた最初のクリスマスを深く味わうために、まず聖書を読んでみるのが大切なのではないでしょうか。

それでは、皆さん、クリスマスおめでとうございます。

Merry and faith-filled Christmas!

マホニー神父様　金祝　おめでとうございます

神に感謝

マホニー神父

私の司祭叙階50周年をお祝いするごミサが、2010年6月20日、生まれ故郷にあるマサチューセッツの教会で盛大に行われました。このミサは私だけではなく他の20人の司祭たちの50周年のお祝いでもあったことから、教会はとても大きな喜びで包まれました。また、このごミサに親類や同級生、そして友人達までもが参加してくれたことにより、私の喜びはさらに深いものとなりました。何よりも私が感動したのは日本の兄弟達までも共にお祝いに来て下さったことです。実は、この日の前日まで、四年に一度開かれるアウグスチノ修道会の管区会議がアメリカで開かれていました。このため、会議に参加した兄弟たち（荘厳誓願宣立者）も、私の金祝をお祝いするごミサに駆けつけてくださったのです。しかし、それは日本で考えれば東京から大阪くらいにまでの距離を車で旅することになりますから、私は会議の疲れを顧みずに喜びを分かち合おうとしてくれた兄弟たちの思いやりの心に心が震える思いがしたのです。

このごミサを通じて特筆すべきことが二つありました。一つは柴田弘之神父様が完璧な英語で説教をしてくださったこと、もう一つは今田昌樹神父様が非常に洗練された英語でお祝いの言葉を述べてくださったことです。このごミサにあずかっていた人たちは、きっと日本人を見るのが初めてだったでしょう。しかし、彼らの外国人を見た好奇心はすぐに驚きと尊敬へと変わっていったのです。彼らも耳にした日本人の口から出るすばらしい英語、そして、そのような美しい言葉を話すことができる仲間を「兄弟」と呼ぶことができることを私は心から光栄に思ったものです。

9月12日に遠い長崎に住む年老いた司祭である私を教会に招いてくださった葛西教会の愛する皆様に本当に感謝したいと思います。皆様の暖かい歓迎パーティーを通じてお顔を拝見でき、そして、お声をかけて頂いたことは一生の思い出です。それぞれのご家族や年配の友人たち、随分と大きくなった子どもたち、そして立派に成長した青年たちに出会えたことは何にも代え難い経験でした。以前と変わらぬ暖かい雰囲気をもつ葛西教会に私は1988年から2008年までおりました。この間、葛西の兄弟姉妹の皆様と多くの喜びと悲しみを分かち合えたこと、そして一緒に神様に感謝と賛美を捧げることができたことが何よりの幸せです。葛西教会の皆様に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

司祭叙階50周年ミサ
於マサチューセッツ教会
2010年6月20日

『マホニー神父様 金祝御目出度う御座います』

アシジのフランシスコ　井出 正弥

マホニー神父様、本当に御目出度う御座います。マホニー神父様は私にとって、修道生活・人生生活の、良き先輩・良き御師匠様であります。今までの沢山の御指導と励まし、有り難とう御座います。御尊敬いたしますマホニー神父様を、見習いさせていただく所は数々在りますが、私目がいつも気付かさせていただくのが、神父様の人間好きで、誰でも人を拒まず受け入れ、そして人を大変、愛するという所であります。

神父様はお口にこそ出しませんが、「異国の地」日本に来られて、大分苦労なさった事と思われます。だから、人間の弱さ・辛さ・悲しさを良く理解されているかと思います。そしてその思いから、人を深く愛し、優しく赦して下さいます。

日本に住む人と日本の教会を、愛して下さっているマホニー神父様、寛大なマホニー神父様、これからも益々お元気で、私ども一同を厳しくそして優しく、御指導の程をお願い致します。

マホニー神父様のこと

教会委員長　パドアのアントニオ　本橋 俊和

9月12日にマホニー神父様の金祝のパーティーが葛西教会で行われ、教会全体が一つに結ばれ大きな喜びと同時に神様と神父様への感謝の心に満たされました。

幸いなことに私は、マホニー神父様と食事をご一緒したり、お茶を飲んだりする機会が何度かあり、その生い立ちの中で司祭職に導かれたお話を伺った。神父様が金祝を迎えたこともあり、その信仰の深さとルーツについて記そうと思う。

（ご存じの方もいらっしゃると思うが…）

周知のとおり神父様はアイルランド系アメリカ人である。日本の明治維新前夜の1854年に神父様のお祖父様が1歳の時、新大陸に渡られた。

アイルランド。この国を明治の日本人は敬愛を込めて『愛蘭土』という想像を豊かにさせてくれるうつくしい漢字をあてた。たぶん江戸末期にオランダやポルトガルだけでなく英米仏露などの国を経由して入ってきた「ガリバー旅行記」などの豊かな文学などからこの字をあてはめたのではないだろうか。しかしこの国は12世紀に英国のヘンリーⅡ世によって侵略され、17世紀にはクロムウエルによって略奪され土地を奪われ、痩せた西部地域に強制的に小作人として移住させられ、土地は英国のプロテスタントの人々に配分された。その上法律によって新しい土地を買えない、役人や医者や警察官にはなれないなど7～800年もの間アイリッシュ・カトリックとして過酷な境遇に耐えねばならなかった。1849年からは有名なジャガイモ飢饉が数年続き100万人以上の餓死者が出たと言われている。神父様のお祖父様の新大陸への移民もそのこととは無縁ではないかと思われる。

新たな地で代々カトリックの信仰を守ることは自分たちのアイデンティティを守る為にしても、新教徒からの差別など多くの困難があったことは想像に難くない。マホニー神父様の信仰がこの先祖や家族の信仰と無縁ではないことは明らかです。神父様の信仰と優しさのルーツを知りたいためにアイルランドの話がつい長くなってしまった。

神父様は19才の時に妹さんを失っておられる。誰もが神の存在を疑うようなその出来ごとの中で、お母様が「○○を私たちにお預けくださり感謝します。今、○○を神さまにお返しします」とおっしゃったその信仰の背中を見て、聖職者への道を決断されたとお聞きした。私はこの話を何回聞いても涙なしに聞くことができなかった。

神父様は1960年に司祭に叙階され、そのたった2年後には日本に来られている。

最初の地が六本木で、日本がオリンピック前の沸き立つような喧騒と埃の中で日本人の誰もが慌ただしく動き回っている時期だった。しばらくして長崎に転任しそこで日本人の信仰の豊かさに触れられ日本人好きになって行かれた。神父様の日本人好きと温かさは誰もが認めることだがその原点は多分にこのころの長崎の人々によってであると思われる。神父様に触れていると、あたたかさは人に生まれて神様から与えられたもっとも大事なものだが、同時に奉仕や貢献をしながら自分を誇示しない事はその人の生き方を通して後天的に受け取った神様からのプレゼントかもしれない、と思わせてくださる。マホニー神父様の信仰の世界に少しでも触れられたことは私の宝物となりました。

長崎の地でいつまでもお元気で、腰や膝など体調と折り合いをつけながら活躍してくださることを葛西教会全員でお祈りしています。

金祝に乾杯

ヨゼフ　金子 元博

このたび、マホニー神父様の金祝の時を迎えられたことを、心よりお慶び申し上げます。

併せて喜寿のお祝いと重ね重ねのお喜び本当に嬉しく思います。

私がマホニー神父様に初めてお目にかかったのは、今から四十年ぐらい前のことになります。葛西教会の前身である松江教会の献堂まもない頃、当時の主任司祭グリフィン神父様と楽しそうに歓談されていたローマンカラーの外国人を紹介されました。

管区長をされていた時には東京の西の豊島区千早に養成の家と言う施設を建てられ、日本の若い修道士を養成され、神父様が幾人も誕生されました。その中に、優秀な今田神父様、平野神父様、遠山神父様、柴田神父様方がおられるのは、皆様もご存知のことと思います。

そして山口神父様のあとに、葛西教会の主任司祭として長年に亘り私達を司牧して下さいました。いつも思うことですが、神父様方は余りにも忙し過ぎるのではないかと言うことです。

マホニー神父様もご多分にもれず病気になられて、大きな手術をされましたが、今ではすっかり元気を取り戻され長崎の地にてご活躍されておられるご様子何よりです。

どうぞいつまでもお元気でお過ごし下さいますよう心からお祈りをしております。

神に感謝！

バザー 開催

バザー実行委員会

10月31日にバザーが開催されました。前日まで台風が心配されましたが、当日はお天気となり、大変賑やかで、大盛況のうちに終えることができました。

今回の寄付金は、教会五十周年記念事業のために有効に使わせていただきます。ご協力、ご奉仕いただいた皆様、お買い上げいただいた皆様、ありがとうございました。

感謝!!

感謝!!

ホセ・マリ・チャン　チャリティーコンサート

Three years ago we did the same charity concert. We sang "Christmas in Our Hearts", which we sang three years ago, and a new song "Wish on Christmas Night", which was a very hard song. The JFY only had five days to practice and perfect this two songs for the concert. Five days is a very short time to make all of us sing it together. The leaders of the JFY burned CDs for us so that we can also practice at home.

"Wish on Christmas Night" was a bit hard for some of us to memorize and sing, but with the help of Megan's father, we are able to sing it within five days. He made the pronounciation close to Japanese, that is why it became easy for us to sing it. Compared to three years ago's concert, this year was better as we sang very well. Three years ago there are only few people who joined, but this year those who joined are two times more than three years ago. However, I think the JFY can sing better and better.

Surely another three years from now the JFY can give a greater performance to all of you.

translated by Mary Kimberly Barcelona,
JFY Junior Leader

３年前にも同じチャリティー・コンサートをやりました。３年前と同様クリスマス・イン・アワー・ハートそしてもう一曲はア・ウィッシュ・オン・クリスマス・ナイトというとても難しい曲をたったの５日で仕上げるという事をJFYで協力しながらやりました。さすがに５日といった短い期間のなかで皆で歌を揃えるのは難しいと言う事になり私達のリーダー的存在の方々がCDを皆に一枚づつやいてくれ．家でも練習出来るように工夫してくれたのです。

最初の曲は結構速く、聴いてるのがやっとという曲だったのですがメガンのお父さんの工夫で皆徐々に歌えるようになり５日目で揃うようになりました。

皆が歌えるようになった工夫は英語の歌詞を分りやすく日本語に書き替えたからと皆のやる気があったからだと私は思います。３年前よりかは完成度が高くより良い歌を歌えたと思います。３年前は人数が少なかったのですが今年は倍の人数がいたので良かったです。ですが．まだまだJFYの子供達なら大きい声が出せたんではないかと私は思います。

３年後はきっともっと良い歌声を皆に届けられるのではないでしょうか。

八重樫真里　ＪＦＹジュニアリーダー

↑前日のリハーサルで初対面するJFYたち

↑舞台で熱唱するJFYたち

↑コンサート後のホセ・マリ・チャンとの記念写真

→リハーサル後の歓迎パーティーですっかり打ち解けたＪＦＹたち

～葛西教会建物修理を終えて～

ドミニコ　佐々木　満夫

今年の大きな出来事として、建物の補修工事があげられます。工事が無事に完了したことへの、素晴しい感謝の祈りを、柴田神父様がささげて下さいました。そのお祈りの全文を掲載させていただきます。このお祈りは、これからの葛西教会共同体にとって大きな指針となると思います。皆様、本当にありがとうございました。

～葛西教会建物修理を終えて～

協力してくださった方々への感謝・祝福の祈り

父である神よ、

二年近い準備の期間を経て、葛西教会の建物修理が一段落し、25年前に建てられたこの教会が特に雨に強い建物へと補強されました。この工事が実現するために様々な側面から労力を注いでくださったすべての方々の上に、あなたからの豊かな祝福を祈り求めます。雨漏りや建物の痛み具合の調査、材質・工事方法の選定、また業者選びなど15回近くの集まりを通して話し合いを重ねてきた建物管理部会の皆さん、工事に当たって細かな配慮をいただいた多くの方々、そして何よりも葛西教会を大切に思い、この計画を実現させるために、金銭面で惜しみなく犠牲を捧げてくださった数多くの信徒の皆さん一人ひとりの思いを、どうか御心に留めてください。

そして、教会建物の補強に力を注いできた私たちが、教会の中身であるキリストを中心とした共同体のゆるぎない一致に向けて、これからもたえず努力を続けていくことができるように、聖霊の導きを祈ります。これはお金を作ることよりもさらに忍耐の要る、時間のかかるプロジェクトかもしれません。でも私たちはまさにこのためにキリストによって呼び集められ、洗礼の恵みを信じてこのキリストに応える生き方を自ら選んでここに集まってきています。私たち一人ひとりの信仰者としての成長が共同体の成長を促し、また成長した共同体の支えを通じて個々の信徒は自分の歩みをキリストに向けてしっかりと方向付けていけるのだということを信じ、喜びをもってともに歩み続けることができますように。

私たちの主イエス・キリストによって。アーメン。

2010年8月29日

西山神父さま講話

パウロ　御馬舎　義道

法王の気高さ

聖母被昇天の日、コンベツアル修道会の西山神父様による講演を拝聴した。

神父がバチカン奉職時の三十年前のことである。当時の法王、ヨハネ・パウロ二世が訪日にあたり、日本語を勉強しはじめた頃からのやり取りなどが紹介された。

日本語教師役の西山神父から見たパパ様は、明らかに「大人」だった。そして物事を自然体で行われたとのこと。また、周りの者の緊張を和らげるために、護衛のスイス兵の真似をするなど、茶目っ気のある方であったことも意外であった。

特に、圧巻だったのは、パパ様のマリア様に対する信心の凄さである。ミサの終わりにいつもポーランド語で「お母さん」と叫ばれていたことなど感動させられた。パパ様の祈る姿の美しさに圧倒されたのは私だけではないと思う。

ところで、西山神父ご自身は話好きだが説教嫌いとのことである。今回の講演は、信者に質問をしながら話を進める方法をとられていたが、ある意味新鮮であった。

私の解釈が間違っていなければ、神父の信条はこの世の中全てが「豚の尻尾」だそうである。豚にシッポがなければサマにならない。このことからして、誰にもどんなもの存在理由があるとのこと。神父の人生観、価値観の一端を垣間見る思いがした。

話の中には少々の自慢もあったが、これも高齢による愛嬌と受け止めるべきである。話好きは被昇天のお祝いの会でも発揮されたようである。

西山神父さまをお迎えして

シエナのカタリナ　平　淳子

二〇一〇年八月十五日、今年は聖母の被昇天が日曜日と重なり、第二次大戦の終結から六十五年目になるという日でした。葛西教会では、コンベンツァル・フランシスコ会の西山神父様をお迎えしてお話を伺うことができました。

故ヨハネパウロ二世パパ様の人間味あふれるエピソードをお聴きして、日本訪問の折の後楽園球場でのミサの情景がよみがえって参りました。

「戦争は人間の仕業です」と平和の大切さを、日本語で切々と語られ、日本をとても愛してくださったパパ様。パパ様は日本語を習得なさる為に、お食事の時間を割かれていらっしゃったとの事。

西山神父様は、パパ様の日本語学習のお手伝いを拝命するに当たり、しっかりご辞退したにも拘らず是非にとご要請を受けお引き受けになったとの事で、畏れ敬いながら光栄あるお勤めに励み、ご寵愛を受けたご様子をお話の端々に伺うことができました。

神父様は、ご自身の癖はお話の中で質問をする事だと仰言って、ご講話の最中にもマリア様の被昇天の意味を問われて、「心（魂）も身体（肉体）も共に天に上げられた、マリア様は人類の中で唯一原罪の無い方、教会の御母である。」と教えていただきました。又、現代は信仰心が薄れていること等、身につまされるお話もございました。

神父さまは胸にT（タウ）のペンダントをつけていらっしゃいましたので、由来を伺ったところ、フランシスコ会訳のエゼキエル九章の一節からきているとの事でした。

飽きのこない語り口でまだまだお聞きしたいところでしたが、時間切れとなり残念でした。高齢にも拘らず遠路よりありがとうございました。ますますお元気で心温まるお話を語りついでいかれますようお祈りいたします。

感謝のうちに

殉教者ヨハネ原主水ゆかりの地を巡礼

聖心のウルスラ宣教女修道会 シスター　伊藤 幸子

「出世街道まっしぐらのエリート原主水。信仰ゆえにどん底の生活に墜ち、すべてを剥奪され、真の光りを見出す。“人間は弱い。だが、強い”」。殉教者ヨハネ原主水は、まさにこの言葉どおりに生き、殉教者の栄冠を勝ちとった。

十一月六日、秋晴れのもと、葛西教会からバスで静岡・殉教者原主水ゆかりの地へ向う。出発前に、柴田神父さま先唱による巡礼の祝福を求める祈りに唱和。行きの車中は、「ヨハネ原主水略伝」の朗読、「一粒の麦が地に落ちて」の聖歌、自己紹介などの旅が続く。『苦いカリス』著者・宗任雅祖子氏のガイドにより、食事処「みろく庵」横に建立された「駿府キリシタン殉教地」の碑を読む。車窓から原主水が額に十字架の焼印、両手の指と両腱を切断された安倍川を眺め、町中を引き回され追放された後に匿われた耕雲寺に到着した。処刑された住職のものらしい卵頭の戒名無しの墓石を見て、急斜面を登ると匿われた狭い「石室」があった。

駿府城掘端のカトリック静岡教会で柴田神父様司式のミサにあずかった。神のみ旨に従う寛大な心についての説教。帰途は富士の雄姿を眺めつつロザリオを繰る。福者原主水が勝ち取った永遠の命を強く渇望した巡礼だった。それはまた「楽しく、祈りの一日だった」。

←主水像

←主水の石室

子どもミサに参加して

クララ　下野 優奈

わたしは、十月十日に初めて子どものミサに参加しました。

東京カテドラル関口教会は天井が高く、広かったので、びっくりしました。

今回、わたしは、葛西教会の代表として、ほうのうの行列を行いました。シスター岸様が中心になって教会学校のみんなで作ったアウグスチノ会の印である聖書とハートと矢のかざりを岡田武夫大司教様に手渡ししました。大司教様は笑顔で受け取ってくださり、とてもうれしかったです。また、大司教様に祝福をいただきました。

ごミサが終わった後に、東京カテドラルの広場で歌を歌ったり、ゲームをしたりして、楽しい一日を過ごしました。

来年も子どものミサに参加したいと思います。

七五三のお祝い

池田 夏樹（5歳）　代筆　ペトロ　池田 泰

葛西教会の皆様、こんにちは。

11／14（日）　御ミサの中で5人の子供達が「七五三」のお祝いと祝福を頂くことができました。

日頃は腕白盛りで御ミサの最中もじっとすることができない息子も、最前列の席だったこともあり、神父様の御ミサを進められる様子を近くから見ながら御ミサに与る喜びを感じることができたようです。

また、この日のため　祖母（戸塚教会所属）が横浜から上京してミサに一緒に与りましたが、柴田神父様や信者の方々と会話が弾み非常にフレンドリーで温かい教会だと感じておりました。

七五三の祝福を受けた子供達も葛西教会で神様の愛と神父様の霊的指導、そして教会の皆様方の温かい見守りの中で健やかに育っていくことと思います。

息子本人から感想を聞き出しところ、以下の感謝のコメントを聞き出しました。

「七五三の時は神様の前でお祝いとオメダイをもらってうれしかったです。隣の女の子がお姫様みたいでかわいかったです。」

神父様、皆様、祝福とお祝い、ありがとうございました。感謝申し上げます。